



つなぐ

～ 緑をつなぎ、笑顔をつなぎ、未来へつなぐ。～

全国農協観光協会は、一般社団法人として5年目を迎え、また、今年は設立から50年という大きな節目を迎えます。取り巻く環境の変化を乗り越えて、創立50周年を迎えることができましたのも、JAグループの皆様をはじめ、関係機関の皆様からいただいたご支援の賜物であり、心から厚く御礼申し上げます。

本会は、昭和42年社団法人として発足し、旅行を通して農家組合員や地域住民の方々の暮らしの活性化、余暇の向上に寄与することを目的として、旅行業に本格的に参入いたしました。

その後、平成2年には旅行事業部門を（株）農協観光として分離し、本会は設立当初の基本方針に基づき、農山村地域の活性化のため都市と農村の交流促進、農家の余暇・生活文化活動の充実、旅行および余暇・生活文化活動に関する

る調査研究、農業視察等に関する利便供与等に取組んできました。

具体的には、田んぼ教室、夏休み子ども村、JAふれあいお米づくりチャレンジスクール等を通じた農業・農村体験の場づくりの取組み、観光従事者の人材育成支援等の教育研修事業、調査研究事業として「民俗芸能と農村生活を考える会」等の地域伝統文化の保存・普及支援活動、観光事情や食農教育関連の各種書籍の出版・発行等に携わってまいりました。

近年では、農と食や農山村生活への関心の高まりの中で、本会独自の企画である農業ボランティア「快汗！猫の手援農隊」や農業体験・自然体験交流企画の拡大と、受入れ地域の体制整備に向けた支援活動の充実、また、新たな事業として開始した日本農業検定事業も、農業農村のファンづくりへ向け、拡大を目指して取組んでいるところです。

現在、地方創生や観光立国の政策推進のなかで、農業と観光との連携を通して農山村地域を元気にする取組みがますます求められており、JAグループにおいても、地域活性化と農業者の所得向上へ向けて積極的な役割発揮を目指した取組みが活発になってきています。

本会としても、創立50周年という大きな節目を機会として、さらに都市と農村の架け橋となる中間支援組織としての役割を発揮し、会員をはじめ、地域の負託にお応えするとともに、取組みの輪を全国に広げ、JAグループの皆様の発展とともに事業に励んでまいりますので、皆様の一層のご支援をよろしくお願い申し上げます。



創立50周年を迎えて

代表理事会長 佐藤 俊彰



“君津らしさ”で 訪日外国人の受入れを目指します ～君津市農業農村活性化協議会(千葉県)～

都市から地方へ。増加する訪日外国人は否応なしに農山漁村の隅々にまで足を運ぶ時勢となりました。協議会では現在、受入れ態勢づくりを目指しており、今回はその活動をご紹介します。

1 増加する外国人

君津市には、ジブリの世界を連想させる「濃溝（のうみぞ）の滝」や、「千と千尋の神隠し」に出てきそうな不思議な光景が見られる「江川海岸」など、スマホ片手の旅行者に人気の場所があります。今や誰もがネットや口コミで足を運ぶ時代。ましてや成田や羽田からアクセスのよい君津市は、増加する訪日外国人への備えが急務となっています。

2 協議会の取組み経緯

君津市農業農村活性化協議会は、農産物直売所を拠点とした農業振興に向け、認定農業者や行政・JAで組織されています。これまで、教育旅行や企業からの農業体験を受入れていたが、指導者付き体験農園を通じて交流人口の拡大も目指しています。平成28年度からは、①「宿泊を伴う教育旅行の受入れを拡大する」、②「体験農園で新たに高齢者や障害者を受入れ、福祉との連携で農業の価値を高める」、そして③「訪日外国人の受入れ態勢を研究する」を3本柱に取組



ブロッコリー畑で記念撮影



いちご摘み取りは早速SNSで発信



濃溝の滝はまるでジブリの世界？

3 訪日外国人受入れに向けた取組み

み、本会はこれを支援しています。

協議会では訪日外国人について、これまでの経験がないことから、まず受入れ先進地の滋賀県日野町へ視察を行いました。そこで「晩農家にお世話になって知り得たことは、外国人であっても特別な用意は不要であること。ありのままの姿が農村生活体験の感動を呼ぶということ。外国語を使えないことはコミュニケーションの阻害要因にはならないことでした。ただし、手洗いや入浴方法の説明には最低限の外国語が必要ですがそれよりも地域ぐるみでの心の交流を行うことが重要なことであると教えていただきました。

その後、研修会を開催し、訪日外国人の現状や先行事例から「君津らしさ」でもてなすにはどんなプログラムがよいかを学び、モニターツアーを実施しました。

4 モニターツアーで感じたこと

モニターツアーには20代から60代の中国、台湾、タイ、ベトナム、カザフスタン、キルギスからの留学生や訪日旅行者に携わる外国人15名が参加。最初のプログラムは「君津らしさ」を発揮する農業体験で、生産者からブロッコリー、ニンジン、収穫手順の説明を受けたうえで作業となりました。都市部出身の参加者たちは圃場に入ることも野菜を収穫することも初めて。見慣れたブロッコリーに大喜びしつつ、早速SNSに発信していました。

次のいちご農園では「紅ほっぺ」という品種を30分摘み取り食べ放題。こんな体験は外国ではできないとのこと、参加者は時間ぎりぎりまで摘み取って食べ、写真におさめ、これもSNSで発信していました。

房総名物「太巻き寿司」作りでは、スシロールと説明すれば外国人も理解。インストラクターの指導で巻き寿司を作り、昼食会となりました。慣れない作業ののち、最後に包丁を入れて現れたお寿司の断面の模様「盆栽梅」に大喜び。おいしいと好評で、参加者からは修了証があればという提案もありました。

5 今後の展望

かつて日本人も海外に出かけ始めたころは、日本との違いに新鮮な感覚を覚えたと思います。それが現在の訪日外国人の姿になっています。今の違いは高度情報化によって「コト」のストーリーや背景を知り、体験したいというしつかりとした動機があることです。それらを「君津らしさ」で受入れるには、団体のみにするか、個人も受入れるか、自分たちの身の丈に合う態勢とは何か？という検討も必要です。取組みはまだ初年度を迎えたばかり。「地域を変えていくには外部の力を借りることも必要」と協議会の鈴木会長は話します。目指すは交流人口の拡大です。農業振興・地域づくりの新たな取組みに向かい合うべく、本会も共に取組んでまいります。



完成！盆栽梅に見えるかな



まずは太巻き寿司の作り方を学びます



日本農業検定を通じ、 「良き農業の理解者・応援団」を 一層増やしていきます

平成28年度日本農業検定は平成29年1月5日(木)～18日(水)に実施し、受検者総数は2,755名で過去最高となりました。このうちJAグループの受検者数が1,978名で全体の約7割を占めました。

平成28年度は新たに「1級」を創設したことに加え、JAでの自己改革が進み、検定への関心が高まってきていると思われます。

日常業務の中で、農業に関する知識を求められるJAの若手職員にとって、基礎的な知識を改めて習得するまたとない機会となると思いますので、皆様のJAにおかれましても、ぜひ受検をご検討ください。

また、一般の受検者も年々増加しています。体験農園の指導者や利用者を中心に農業への関心が高まっており、栽培に関する知識を確認する機会にもつながっています。食やJAに関わりのある業務を展開する民間企業の社員が受検するケースも増えつつあります。

今後も日本農業検定を通じ、「良き農業の理解者・応援団」を一層増やしていきます。



平成28年度受検風景

■平成28年度日本農業検定試験結果(速報)

受検者総数 2,755名				合格者総数 1,988名			
合格率	1級	35%	2級	72%	3級	80%	全体 72%

なお、試験結果の詳細については、14号(8月号)で掲載いたします。

平成28年度団体受検JA・JAグループ名

都道府県	JA名	都道府県	JA名
山形県	山形中央会	岐阜県	岐阜信連
群馬県	群馬中央会	大阪府	大阪南
栃木県	栃木中央会		大阪東部
	はが野		たかつき
	かみつが		大阪市
神奈川県	いせはら		北河内
	津久井郡		堺市
	はだの		茨木市
	さがみ		大阪信連
	セレサ川崎	兵庫県	全農大阪
	横浜		兵庫西
	相模原市	広島県	みのり
	あつぎ		福山市
東京都	全農かながわ	島根県	広島市
	あきがわ		しまね
	東京あおば	山口県	周南
	にしたま	愛媛県	おちいまばり
	町田市	高知県	土佐くろしお
	東京みらい	宮崎県	宮崎中央会
山梨県	フルーツ山梨		宮崎中央
千葉県	市原市		尾鈴
	きみつ	大分県	大分中央会
静岡県	なんすん		大分信連
	伊豆の国	JAグループ	おきなわ
	富士市		日本農業新聞
	とびあ浜松	愛知県	農林中央金庫(前橋)
	なごや		

美しい日本の農村と、安全で質の高い日本の農業を守り 豊かな食文化をつなぐ交流企画

体験交流課では、美しい日本の農村と安全で質の高い日本の農業を守り、豊かな食文化をつなぐために、平成28年度も全国さまざまな地域と都市生活者との「ふれあい」交流をお手伝いしてまいりました。

ホンモノの農業に触れ、農村の実情を知ってもらい、地域の活性化に貢献する「援農ボランティア」や食の選択や食文化・食育を学ぶ「食育探訪」。移住・就農のきっかけづくりを提案する「田舎暮らし体験」や、農と食に興味・関心を持ってもらうための「ふるさと体験交流」。

この1年間で、これらの交流企画に約3,200名のご参加をいただき、日本の農業・農村を応援していただきました。

平成29年度も引き続き、日本の農業・農村の応援をしてまいりますのでご支援、ご協力をお願いします。

平成28年度新たに実施した援農企画(結果)

6月 山梨県南アルプス市 受入れJA/JAこま野 さくらんぼ援農隊



フルーツ王国・山梨県にてさくらんぼの収穫をお手伝いしました。山梨県はさくらんぼの南限とも言われ、市場にもっとも早く出回ります。木が高いため脚立を使っている作業ですが、高価な果物ということもあり、一つ一つ丁寧に収穫しました。この地では、11月にあんぽ柿の援農も実施しました。

6月 山梨県甲府市 受入れJA/JA甲府市 ぶどうカサかけ隊

日焼けや鳥などからぶどうを守るために、一つずつカサをかけていく作業をお手伝い。甲府盆地に位置する圃場は見晴らしがよく、富士山を眺めることができました。当日はお天気にも恵まれ、作業がはかどり3日間で約1万房にカサかけを実施。まさに快挙でした!



10月 熊本県西原村 受入れJA/JA阿蘇 阿蘇甘藷援農隊



熊本地震で被災した農家を少しでも応援しようと甘藷の援農を実施しました。地震の影響でゆがんだ畑もある中、甘藷の収穫、ヘタとり、水洗い、選別、箱詰めを手伝いました。被災直後の話を聞いたり、現在の状況を実際に見た参加者は、「都会にしていると気づかないことがあるけれど、今の熊本を感じて、理解することができた。これからも応援していきたい」と話していました。

平成29年度新規援農企画(実施予定)

7月 青森県南津軽郡 受入れJA/JA津軽みらい ときわにんにく収穫隊

粒の大きさと、雪のような白さが高評価のときわにんにく収穫ボランティアです。

9月 青森県黒石市 受入れJA/JA津軽みらい 津軽りんご収穫隊

全国生産量の約6割を占め、海外でも知られる青森県のりんご収穫ボランティアです。



平成28年度 実施結果

- 援……………地域の農業を応援「快汗! 猫の手援農隊」
- 田……………移住・就農のきっかけづくり「田舎暮らし体験」
- 食……………食文化・食育を学ぶ「田舎でいいね! 食育探訪」

2016年4月

- 援 チューリップ花摘み隊(富山県高岡市)
- 食 里山の棚田でお米作りスクール 田植え(千葉県鴨川市)

2016年5月

- 援 足柄茶 茶摘み隊(神奈川県相模原市)
- 食 小山市「お米作り体験」 田植え(栃木県小山市)
- 食 ふれあい田んぼ杉戸町お米作り 田植え(埼玉県杉戸町)
- 援 天空の大地で機能性雑穀を作ろう(長野県長和町)
- 田 自然の恵みを満喫! 小谷村での田舎暮らし(長野県小谷村)
- 援 カーネーション片付け隊(神奈川県秦野市)

2016年6月

- 援 とちおとめ片付け隊(栃木県さくら市)
- 援 りんご摘果隊(長野県中野市)
- 援 南アルプス市さくらんぼ援農隊(山梨県南アルプス市)
- 援 にんにく収穫隊(新潟県長岡市)
- 食 甘々娘収穫と伝統の郷土料理「みみ」作り(山梨県西八代郡)
- 援 東根市さくらんぼ援農隊(山形県東根市)
- 援 甲府市ぶどうカサかけ隊(山梨県甲府市)

2016年7月

- 援 三島馬鈴薯収穫隊(静岡県三島市)
- 援 菌床しいたけ援農隊(栃木県さくら市)
- 田 三種町田舎暮らしとじゅんさい摘み取り(秋田県三種町)
- 食 完熟ブルーベリー生食&手すき紙づくり体験(福井県越前市)
- 援 大井町みかん摘果隊(神奈川県大井町)

2016年8月

- 食 美味しい関城の幸水・梨狩り&ぶどう狩りinやさと(茨城県石岡市)
- 援 ささげ豆収穫選別隊(新潟県小千谷市)
- 食 里山の棚田でお米作りスクール 稲刈り(千葉県鴨川市)

2016年9月

- 食 日本みつばち蜂蜜絞りとりと里山体験in鮫川村(福島県鮫川村)
- 援 田 日本の真ん中「えなかな暮らし」(岐阜県恵那市)
- 援 徳島すだち援農隊(徳島県佐那河内村)
- 援 山ぶどう収穫選別隊(山梨県早川町)
- 食 京都・綾部で「少し昔の田舎暮らし体験」(京都府綾部市)
- 援 森のワーキングホリデー(長野県飯山市)
- 援 さるなし収穫隊(長野県小谷村)
- 援 りんご葉摘み隊(長野県中野市)

2016年10月

- 食 たむらで菜の花種まきと季節の野菜収穫体験(福島県田村市)
- 食 ふれあい田んぼ杉戸町お米作り 稲刈り(埼玉県杉戸町)
- 援 にんにく植付け隊(新潟県長岡市)
- 援 京丹波黒大豆(枝豆)収穫・仕分け隊(京都府京丹波町)
- 援 天空の大地で機能性雑穀を作ろう〜収穫編〜(長野県長和町)
- 援 阿蘇 甘藷(さつまいも)援農隊(熊本県西原村)
- 援 奥越前さといも収穫・仕分け隊(福井県越前市)
- 援 市田柿援農隊(長野県高森町)

2016年11月

- 援 南アルプス市あんぽ柿援農隊(山梨県南アルプス市)
- 田 能登島の島暮らし(石川県七尾市)
- 援 滋賀県日野菜(カブ)収穫・仕分け隊(滋賀県日野町)
- 援 りんご総採り収穫隊(長野県中野市)
- 食 ころ柿作りと自然薯収穫体験in丸森町(宮城県丸森町)
- 援 西宇和みかん収穫隊(愛媛県西宇和郡)

2016年12月

- 援 多賀にんじん収穫・仕分け隊(滋賀県多賀町)
- 援 三ヶ日みかん収穫隊(静岡県浜松市)
- 援 鴨川市温州みかん総採り収穫隊(千葉県鴨川市)
- 援 大井町温州みかん総採り収穫隊(神奈川県大井町)
- 援 紀の川八朔(はっさく)収穫隊(和歌山県紀の川市)

2017年1月

- 食 ブランド白菜“邑美人”収穫と上州麦豚ソーセージ(群馬県館林市)

2017年2月

- 田 国石「ヒスイ」のふるさとを訪ねる(新潟県糸魚川市)
- 田 奄美大島の島暮らし(鹿児島県大島郡)

2017年3月

- 田 答志島の島暮らし(三重県鳥羽市)